

## P1-031

## 全身麻酔下集中歯科治療を行った多数歯重症齲蝕症患児における食事と生活リズムの検討

森山 敬太<sup>1</sup>、三井 恵理奈<sup>2</sup>、竹内 由里<sup>2</sup>、  
正村 正仁<sup>1</sup>、大須賀 直人<sup>1</sup>

<sup>1</sup>松本歯科大学 小児歯科学講座

<sup>2</sup>松本歯科大学病院

## 【目的】

近年、齲蝕予防への関心は高く、口腔擦掃指導やフッ化物の応用などの取り組みが行われている。しかし様々な家族構成や生活リズムのため、家庭間で食事や間食の均一化を図ることは困難である。当科では全身麻酔下集中歯科治療時に管理栄養士の元で食生活調査を行っている。今回、過去5年間に全身麻酔下にて施術した患児における食生活調査の結果を検討したので報告する。

## 【方法】

対象は、2013年1月10日から2017年12月21日までの5年間に松本歯科大学病院小児歯科において全身麻酔下集中歯科治療を行った105名の患児とし、施術当日に管理栄養士が記録した食生活調査票と診療録をもとに調査を行った。調査項目は、性別、施術時年齢、生活環境、飲食歯磨きのリズムとした。

## 【結果】

性別は、男児65名(61.9%)、女児40名(38.1%)であった。施術時平均年齢は4.1歳であった。家族構成は、父母ともにいる家庭が88名(83.8%)、母子家庭が16名(15.2%)、父母がともなく祖父母のみが1名(1%)であった。祖父母が同居する家庭が40名(38.1%)であった。兄弟姉妹がいる患児は78名(74.2%)、そのうち末子が50名(47.6%)であった。昼間の生活場所は保育園が72名(68.6%)であった。起床・朝食時刻は7時00分が42名(40%)、朝食後の歯磨きは、行わないが43名(40.9%)であった。午前の間食は、ありが24名(22.8%)であった。昼食時刻は11時30分から12時00分が90名で、昼食後の歯磨きは、患児のみが71名(67.6%)であった。午後の間食は、ありが101名(96.1%)で、2回以上間食ありが34名(32.3%)であった。夕食時刻は19時00分が34名(32.3%)で、夕食後の歯磨きは行わないが50名(47.6%)、保護者が仕上げ磨きを行うは51名(48.5%)とほぼ同じであった。夜間の間食は、ありが39名(37.1%)で、夜間間食後の歯磨きは保護者が仕上げ磨きを行うが44名(41.9%)であった。就寝時刻は21時00分が52名(49.5%)であった。

## 【考察】

多くの患児が保育園に通園しているため日中の摂食回数は制限されている。一方、帰宅後に祖父母と過ごすことや末子であることが、夕食までの間食回数を増やす要因であると推察する。また夕食後、保護者の仕上げ磨きが就寝前であるため、夜間間食を摂る機会に繋がると考えられる。食事や間食の頻度やその後の擦掃法に加えて、家族構成や生活リズムを包括したが改善計画の立案が必要である。今後歯科医師・歯科衛生士が管理栄養士と協力してることが重要であると思われる。

## P1-032

## 東京都の認可保育所・公立幼稚園・認定こども園における歯科保健活動の現状

内川 喜盛、高橋 沙耶、林 陽佳、巻 竜也、  
山崎 てるみ、梅津 糸由子、白瀬 敏臣

日本歯科大学附属病院 小児歯科

## 【目的】

本調査は、東京都内の認可保育園、公立幼稚園、認定こども園を対象に各施設でどのような歯科保健活動が行われているかを探り、今後の施設での歯科保健活動向上のための資料とすることを目的とし、日本歯科大学生命歯学部倫理委員会の承認(承認番号NDU-T2015-32)を得て東京都学校歯科医会との共同研究にて行った。

## 【対象と調査方法】

対象は、東京都内の認可保育所(以下、保育所)2,184施設、公立幼稚園(以下、幼稚園)181施設および認定こども園(以下、こども園)93施設とした(2015年11月時点)。調査は、施設宛てに調査依頼書、調査説明書、歯科保健活動に関するアンケート用紙を郵送し、アンケートに記入後、返送してもらって郵送調査法にて行った。アンケートの質問項目は歯科健康診断の実態、歯科保健指導の有無とその内容、昼食後の歯磨き、食育の有無とその内容、現在の歯科保健活動の満足度などとした。

## 【結果および考察】

- 1) 返信されたアンケート回答数は、総発送数2,458施設中で1,383施設(回収率56.3%)であった。
- 2) 歯科健康診断は98.8%の施設において行われているが、その結果を扱う職種やデータの扱いは多様であった。
- 3) 保育所、幼稚園およびこども園での歯科保健指導は、約90%の施設で実施され、主な指導の対象者は園児であった。保護者、職員も対象とされている施設もあったが、保育所、こども園では低率であった。
- 4) 歯科保健指導に携わる職種は、保育所では看護師、幼稚園では歯科医師、こども園では歯科衛生士が最も多かった。また、保育所では歯科医師、歯科衛生士など歯科の専門職がかかわらない施設が25%を超えていた。
- 5) 昼食後の歯磨きは60%を超える施設で実施され、3～4歳児からの開始が多かった。
- 6) 給食以外での食育は80%を超える施設で実施され、主に栄養士、保育士、幼稚園教諭が担当していた。
- 7) それぞれの施設での歯科保健活動について「満足」と回答したのは、保育所が最も低く85.3%で、幼稚園、こども園ではそれぞれ93.0%、92.9%であった。保育所の満足度が低い原因として、保育所の歯科保健活動に歯科医師または歯科衛生士の歯科専門職が関わっていないことが推察された。